

事業報告書（令和6年度）

事業名 SDGs を考える多国籍ラフティング体験

団体名 岡山ネパール人協会 担当者名 バスネット ナバラジ

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）
日時：2024年7月14日（日） 場所：徳島県吉野川 参加対象者：岡山市近郊及び福山市近郊に在住在勤の高校生以上の日本人と留学生 参加人数：13名（日本学生4名、留学生3名、社会人6名） 岡山市と並んで留学生の増えている福山市と共同で、ベテランネパール人ガイドと吉野川ラフティングを楽しみながら、多文化共生、環境問題、移民について考えるSDGsなツアーを企画した。 日程は下記のとおり。 10:30 祖谷のかずら橋→観光/ランチ（50分）→12:15 賢見温泉着→12:30 ラフティング開始→16:00 ラフティング終了→賢見温泉出発→18:00 岡山駅到着/解散 往復のバスの移動時に多文化共生、環境問題、移民についてなどをテーマにみんなで意見を交換した。
2. ESDの視点
① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか 外国にルーツのある人たちが主体となってイベントを企画・運営しつつ、日本人との協働することで多文化共生を考えるきっかけになった。
② どのように学び合いを取り入れたか 実行委員会にネパール出身者と日本人が混ざることでお互いの国のやり方を参考にすることができた。
③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか イベント自体のコンセプトは概ねSDGsゴールにそうものであったが、岡山組と福山組とでイベントに対する温度差があり、残念だった。
3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）
移動時のバスの車内で座学を行った。自己紹介、参加者の参加動機、多文化共生社会についての意見などをそれぞれ発表した。また現地ではネパール人がプロのラフティングガイドとして働いていることを知り、日本に移住をしたネパール人労働者の置かれている環境

や労働条件、雇い先の企業との潤滑な関係など、当事者の生の声を聞くことができた。
また、チームワークビルディングアクティビティであるラフティングを通じて SDGs のゴール 11 と 17 を学ぶきっかけになった。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

岡山市と福山市のネパール支援団体の共同で企画を立ち上げたが、福山市のメンバーに自分たちの企画という自覚がなさすぎて、同じ日に別の企画を立ち上げ、そちらがあるためラフティングには参加できないという前代未聞の状態になった。なんとか岡山組だけで参加者を集め、実施をしたが、成功したのを見聞きしたとたん、間髪を入れず同じイベントを自分たちもしたいと動いていたようだが、実現にはいたらなかったようである。

今回の反省を踏まえ、来年度も実施するのであれば岡山のための主催で実施したいと考えている。

また、今回は参加募集の周知が思うようにできなかったため、メンバーに偏りがでてしまったことや、座学時の資料など、準備不足が各所でみられた。

この反省を踏まえ、今後は早い段階から担当を決め、お互いの進ちょく状況を確認しながら最後の報告書作成まで責任をもってやっていきたいと考えている。

